

1	議席番号 1 2 番 大石 巖 議員	開始予定時間 9 月 1 7 日 午前 9 時
<p>【町営住宅の入居条件緩和について】</p> <p>吉田町内には、町営住宅の団地が 4 か所ありますが、空室が目立ちます。町営住宅は、住宅に困窮する低所得者に低廉な家賃で賃貸し、生活の安定を図る施設であると考えます。</p> <p>第 5 次吉田町総合計画前期基本計画「第 4 章 住環境」の分野では、町営住宅の整備について「町営住宅は、耐用年数を迎える建物が増えているため、長寿命化や建替えに向けた計画的な対応が求められています」としています。</p> <p>そこで、以下について質問します。</p> <p>(1) 公営住宅法の第 1 条で、この法律の目的として、「健康で文化的な生活を営むに足りる住宅」とし、「国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与する」とあるが、現状として目的どおりの役割を果たしているか。</p> <p>(2) 長寿命化計画に沿って修繕を実施する方針であるが、老朽している松原団地の建て替え整備の計画はないか。</p> <p>(3) 空室をなくし、効率のいい運営を行うためにも入居条件を緩和できないか。</p>		

【プログラミング教育について】

文部科学省は、2020年度から全小学校で「プログラミング教育の必修化」を決定しました。プログラミング教育の円滑な実施に向け、2019年度から準備をはじめるとする実施工程表の一例を挙げています。

この例によると、春は、ICT環境の整備を開始するようになっており、我が町では、すでに「TCPトリビンスプラン」の施策のひとつ「児童生徒用ICT機器の整備」で、各小学校へ生徒用タブレット40台を用意し、ICT教育の推進を進めています。そして、同工程表の一例の夏においては、全校の特定の教師がプログラミング模擬授業を開始する、そして秋には、全校でのプログラミング授業の計画を開始、冬は、整備に関する意思決定、予算成立となっております、2020年度春、本格始動となっております。

以上を踏まえ、以下、質問します。

- (1) プログラミング教育が始まることによって、これまで町が描いてきた子供たちの将来像に、どのような効果があるとお考えでしょうか。
- (2) 隣の牧之原市では、中学校の廊下にWi-Fiルーターを設置し、教室内で理科の実験等をYouTubeで視聴できる環境となっていたり、市内民間企業を講師として「ドローンを活用した授業」形式でプログラミング教育を学ぶ教員対象の研修ワークショップを開催するなど、我が町と比べるとICT機器の推進や先生方への研修等の準備が進んでいるように私は考えますが、我が町では、今後のICT機器の推進と先生方への研修の準備をどのように進めていくのでしょうか。
- (3) 2020年度から、プログラミング教育とともに、小学校で英語が必修化されるなど、様々な教育改革が行われ、教員一人への負担が増えてくるのが考えられますが、町では円滑な実施に向けた導入をどのように考えていますか。
- (4) 学習指導要領に例示されている単元等で、プログラミング教育を実施するものとして、5年生では算数、6年生では理科となっており、新たな教科書には実施方法が載り、先生方も子供たちへ伝えやすいようですが、総合的な学習時間においては、特に教科書等はないと伺っています。我が町では、3年生から取り入れていく方向性で考えているとのことですが、3つの探求課題は、地域や社会に密接した課題となっており、社会見学などを通して地域社会を学び始めた3年生よりも、もう少し経験を重ねた高学年からのほうが子供たちにも学びやすいのではと私は考えますが、町はどのようにプログラミング教育を導入し進めようとしていますか。

3

議席番号 1 番

福世 義己 議員

開始予定時間

9月17日 午前11時

【安定ヨウ素剤の配布について】

中部電力浜岡原子力発電所のUPZ圏内に位置する吉田町は、原子力災害対策を重点的に行う地域となっています。

風下側に位置する吉田町は、より多くの放射性物質が広がってくるのが考えられます。被ばくの影響を最小限に留められるよう、避難行動や防護措置が必要となってきますが、放射性物質は、人間の五感では感じとることが出来ませんので、状況判断が難しいものとなっています。

原子力発電所で過酷事故による災害が発生した場合、初期の段階では、放射性ヨウ素が多量に発生することが知られています。放射性ヨウ素の甲状腺などへの蓄積を減らすためには、安定ヨウ素剤の事前の服用が有効とされていますが、服用するタイミングによっては、十分な効果が得られないことがあります。吉田町民全員に配布するのは、事前の綿密な計画の下、大変な作業になると思います。

そこで以下の点について質問します。

- (1) 安定ヨウ素剤は、放射性物質が飛散する1日前に服用するのが最も効果的とされていますが、それを踏まえて、町ではどのタイミングで配布するのが、より良い方法と考えていますか。
- (2) 配布するに当たっては、医師や薬剤師による問診が必要となりますが、必要人数の確保の見通しは、どのようになっていますか。
- (3) 配布には多くの時間を要すると思いますが、どれくらいの日数を想定していますか。
- (4) 安定ヨウ素剤を服用すると、まれに副作用が出るおそれがある人がいますが、この人たちに、服用に代わる対策はありますか。

4	議席番号 3 番 盛 純一郎 議員	開始予定時間 9月17日 午後1時
<p>【遠距離徒歩通学者の許可制による自転車通学の認可について】</p> <p>2019年4月1日に「静岡県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」、通称「静岡県自転車条例」が施行され、10月1日より自転車保険の加入義務化と小・中学生の自転車通学時のヘルメット着用義務化が施行されます。</p> <p>当条例において、県知事は「自転車が環境に優しい身近な交通手段として安全で適正に活用され、本県が自転車の聖地となるよう、この条例を制定する」「学校の長は生徒が自転車を安全で適正に利用することができるよう、必要な教育をおこなうよう努めなければならない」と規定しています。</p> <p>他方、当町においては、吉田中学校への自転車通学は通学距離や時間の多寡に関わらず、一切認められていません。</p> <p>しかしながら、全国の中学校事例や静岡市内の各中学校、また隣接市の現状を参照した上で、吉田中学の生徒が今後も一律に徒歩による登下校のみという姿勢が継続されるのは、該当する生徒及びその家庭と中学近隣地域の生徒及びその家庭との間で、日常における時間格差等が生じ、公平性や合理性を欠くものではないかとの考えに至りました。</p> <p>そこで、以下質問します。</p> <p>(1) 県条例に則したかたちでの小中学生への自転車利用への教育は、当町でどのように行われていますか。</p> <p>(2) 各家庭の判断において、通学時・下校時に車による送迎が行われていることに対する所見は。</p> <p>(3) 遠距離徒歩通学者の許可制による自転車通学の認可について、教育長のお考えは。</p> <p>(4) 今後、遠距離徒歩通学者（ここでは実測で約2km以上、徒歩約30分以上とする）を対象に、許可制による自転車通学の認可を早急に検討して頂けますか。</p> <p>また、そうした際に、障壁になることは、どのようなことですか。</p> <p>【町内小中学校のICT環境の整備について】</p> <p>令和の時代とともに、小中の学校教育を取り巻く状況が大きく変化しようとしています。新聞記事によると、文部科学省が来年度以降、全小中高等学校の超高速通信網を利用した「ギガスクールネットワーク構想」（仮称）の整備に本格的に乗り出し、自治体への費用補助による学校側の環境整備を後押しし、また、これとは別に、近い将来、ネットに繋がるタブレット端末な</p>		

どを児童・生徒に1人1台配備する計画も進んでいるとのこと。

I C Tの急速な普及・利用推進により、子ども・教職員・保護者等が、添付した文部科学省資料にあるような事例の実現によって受ける利益はとて
も大きいものになると期待される一方、こうしたI C T環境の整備・運用が、
わずか数年後に本当に実現に至るのか、という疑問もあります。

そこで、以下質問をします。

- (1) 現在の当町の小中学校のパソコン及びタブレット端末やネット環境の
整備状況や教職員の利用状況はどのようなものですか。
- (2) 現状において、当町の小中学校のパソコン及びタブレット端末やネット
環境においての職務上の課題や、改善を望む点は主にどのようなものがあ
りますか。
- (3) 文部科学省の政策発表を踏まえ、当町の学校教育に関する各施策、「第
5次吉田町総合計画後期基本計画」や次年度以降に新たに策定される「吉
田町教育大綱」や「T C Pトリビンスプラン」にどのような影響がありま
すか。
- (4) 3年後、または5年後の当町の小中学校のI C T環境はどのようになっ
ていると考えられますか。(整備・運用状況の展望・ビジョンなどをお聞
かせください。)

5	議席番号 9 番	山内 均 議員	開始予定時間 9月17日 午後2時
<p>【吉田町立学校体育施設の開放及び管理運営について】</p> <p>「文部科学省通知、学校体育施設の開放事業の推進について」「吉田町学校施設利用条例」及び「吉田町立学校施設の使用及び管理運営に関する規則」を参考に質問をする。資料として添付した。</p> <p>文部科学省は、学校体育施設の開放事業の推進を行っている。日常生活におけるスポーツ活動を活発にするため、小学校、中学校及び高等学校の運動場、体育館など、学校の体育施設開放事業を推進している。</p> <p>学校体育施設の開放事業の主体は教育委員会が行う。開放に伴う管理責任は教育委員会にある。学校ごとに施設の管理責任者を指定し、施設の管理、利用者の安全確保及び指導に当たる管理指導員をおくことなどを示している。</p> <p>運営においては、教育委員会は、スポーツ団体と連絡を密にし、効果的な事業の遂行を図るとともに、事故防止や保険制度を利用し事故に備えること。また、地域及び学校の実態に即し、地域住民の要請に応え、実施方法に工夫を加えて、事業効果があがるようなものとするとしている。</p> <p>「吉田町立学校施設の使用及び管理運営に関する規則」には、学校の管理責任のみしか示されていない。</p> <p>また、平成17年12月議会で同僚議員が一般質問を行い、住吉小学校では、グラウンドと道路を隔てるネットフェンスを飛び越えたボールが通行車両に当たって起こる事故発生の危険性を指摘した。また、他の小・中学校施設でも、同様に、事故発生の危険性や民家へ迷惑を与えている実情に対しても質問したが、明確な回答は示されなかった。</p> <p>事故発生の危険性への予測や近隣へ与えている状況や影響などに対して、教育委員会は管理責任を明確にすべきである。</p> <p>そこで質問をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事故発生の危険性の認識及び近隣住民への迷惑の現状は把握しているか。 (2) (1)を認識したとき、教育委員会は、スポーツ団体と連絡を密にし、効果的な事業の遂行を図るための協議は行っているのか。また、協議結果は公開しているか。 (3) 地域及び学校の実態に即し、地域住民の要請に応え、実施方法に工夫を加えてとあるが、地域住民に対する工夫は考えているか。 (4) 近隣市のネット高さ8～9メートルと同等の高さのネットフェンス設置など具体的な対策は考えないか。 (5) 吉田町教育委員会は学校体育施設の開放事業の管理責任をどのように考えているか。 			

【吉田町都市計画マスタープランについて】

吉田町都市計画マスタープランは平成21年から平成37年度を対象として策定され、平成30年3月に変更されています。

市町村マスタープランは、住民に最も近い立場にある市町村が、その創意工夫の下に住民の意見を反映し、まちづくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、地区別のあるべき「まち」の姿を定めるものです。

この吉田町都市計画マスタープランについて片岡地域を中心に以下に質問いたします。

- (1) 地域づくりの方針中、「1 土地利用の誘導方針、① 吉田田んぼの環境保全」において、「一団の優良農地である吉田田んぼは、本町の貴重な農業生産地であり、広々とした緑の環境は本町の貴重な資源であるため、土地基盤整備や施設の近代化、農地の流動化等による経営の安定化により、引き続き環境保全・改善を図ります。」と記載されています。

この記載は、前期とほぼ同じ内容です。今まで具体的に何をを行い、環境保全・改善を図ったのでしょうか。

また、前記文章の続きとして「また、市街地近郊にある貴重な緑の景観として、継続的に保全するような体制づくりを強化します。」と記載されています。前期プランには「また、市街地近郊にある貴重な緑の景観として、継続的に保全できる手法について研究します。」とあります。

研究結果は何であり、どのような体制を作ろうとしていますか。

- (2) 地域づくりの方針中、「1 土地利用の誘導方針、③ 商業機能の配置」において、「国道150号沿いにおいては、身近な商業施設を誘導し、既存住宅との調和のとれた土地利用を進めます。」と記載されています。

身近な商業施設をどのように誘導するお考えでしょうか。また、既存住宅との調和の取れた土地利用とは、どのような事でしょうか。

- (3) 地域づくりの方針中、「2 都市施設の整備、1) 道路、③ 安全な通学路の確保」において、「子どもが安全に通学できる環境とするため、通学路の危険な場所を定期的に把握し、グリーンベルトの設置など適切に対応することで、安全対策を進めます。」と記載されています。

通学路の危険な場所を定期的に把握することに関して、どのような頻度でどのような危険場所をチェックしているのでしょうか。また、片岡地域のグリーンベルトの設置状況は現在十分とお考えでしょうか。平成30年度以降設置した例は有りますでしょうか。今後の設置予定は有りますでしょうか。

- (4) 地域づくりの方針中、「2 都市施設の整備、2) 公園、緑地、① 二

級河川湯日川沿いの散策路の整備と管理」において、「堤防を有効利用して、（都）能満寺山公園や町立図書館から中央児童館までの施設を結び二級河川湯日川の自然に触れることができるような整備を進めます。」と記載されています。

具体的構想をご教示ください。また、その進捗状況はどうでしょうか。

- (5) 地域づくりの方針中、「2 都市施設の整備、2) 公園、緑地、②（都）能満寺山公園の整備」において、「来訪者の満足度を高めるため、高齢者や子どもにも配慮した公園散策路の整備を進めます。」と記載されています。

具体的構想をご教示ください。また、その進捗状況はどうでしょうか。

- (6) 地域づくりの方針中、「2 都市施設の整備、3) 公共施設他、① 公共的な交通手段の研究」において、「地域内に町立図書館や中央児童館、健康福祉センターなどが整備されましたが、公共的交通手段がなく、高齢化社会の進行に伴い、自動車中心社会において移動を制約される人にとって不便な状況になっています。このため、新たな交通手段の研究を進めます。」と記載されています。

本年度予算に計上されている「新たな交通体系の構築に向けた調査」に本件に関する交通手段の研究は含まれているのでしょうか。

- (7) 平成21年～平成37年の都市計画マスタープランが平成30年3月に変更されました。しかし、片岡地域に関する記載では、新規な計画はなく、ほぼ同じ記載がされています。

平成29年度までの計画の進捗はかなり少ないとの理解でよろしいでしょうか。

【水産基盤の整備について】

町長は、東日本大地震を境に、『津波防災まちづくり』なくして当町の将来は無いという強い危機感を持ち防災施策に全力で取り込んできた。」と、一般質問で答えています。確かに、東日本大震災後、短時間で津波避難タワー15基の設置や防潮堤の嵩上げ、シーガーデンシティ構想事業など、完了した事業、現在進行中の事業、今後実施される事業など「津波防災まちづくり」に向け着々と進んでいます。

川尻海岸の防潮堤整備、シーガーデンシティ構想、住吉海岸の防潮堤整備について計画され実施されれば、当町の海岸では、津波に対する防御ができる様に思いますが、中間にある吉田漁港においてはどうでしょうか。

現在、漁港周囲は胸壁というコンクリート壁で囲われ、出入り口には陸閘という門扉が設けられています。海岸線の津波防潮堤が完成しても、漁船の出入りする港の整備についてはどうでしょうか。確かに、漁港周辺は胸壁で囲われていますが、この胸壁はL1対応で、町の進めているL2に対応するものではありません。

したがって、いざ津波が襲ってきた場合、整備された津波防潮堤では問題なくても、漁港から居住地へと津波が襲い、内陸まで進んでしまうと考えます。

第5次吉田町総合計画の前期基本計画の中で、水産基盤の整備推進があります。

施策の方向性として、「防波堤及び主要陸揚岸壁の耐震・対津波強化（重点）」と「多目的広場の整備（重点）」があげられており、現状と課題、4年後の姿についても記されています。

これらの事から以下質問いたします。

- (1) 漁港周囲の胸壁への津波対策整備が強化できなければ、漁港背後地を守ることはできないので、この整備は大変重要であると考えますが、町長はどのように考えているか。
- (2) 前期基本計画の中で、4年後の姿として防潮堤等の漁港施設と胸壁等の海岸保全施設との多重防護による津波対策の整備を進めることにより、漁港及び漁港背後地の安全安心が確保されています。と記されている事と現状とが乖離しているようだがその原因は何か。
- (3) 漁港背後地を守るために必要な、胸壁等の海岸保全施設における津波対策整備計画はどの様に考えられているか。
- (4) 上記事業を実施するに当たり、財源についてはどの様に考えているか。

【町民の健康づくりについて】

町は、第5次吉田町総合計画の中で「誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり」を目指している。町民の健康づくりのため、町が行う各種の教室にはさまざまなものがある。総合体育館で行われている若返り貯筋塾においては、教室が対象者ごとや利用しやすい時間などが配慮されている。

そうした中、一番身近で取り組みやすい健康づくりとして、町は、ウォーキングにも力を入れている。毎年11月に行なわれる町内のウォーキングイベントもあり、このイベントは好評で参加者も年々増えている。

近年、自然環境の変化で、夏期は猛暑日が多く、日中はとてもウォーキングが出来るような状態ではなく、ウォーキングを健康づくりに取り入れている方は、早朝の時間や夕方4時ごろでもまだ暑いので、日が沈んでからウォーキングをしているなど工夫をされて、ウォーキングを続けている。

そこで、以下の質問をする。

- (1) 他の健康づくりの教室の利用者数から見て、ウォーキングは町民に浸透、定着していると考えるか。
- (2) 夏期（7・8・9月）は特に暑いですが、健康づくり教室ではどのようなことに気をつけ、開催しているのか。
- (3) 当町には、水泳施設はないが、民間の施設の空き時間を利用し、暑い時期に日中でも心地よく運動できる水中ウォーキングを教室として取り入れていく考えは。

【健康づくりの目標値について】

第5次吉田町総合計画の中で、「誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり」の「健康づくり」の分野で、「いつまでも健康で元気に暮らせるまち」を目指す状態としている。

その中で、支援ニーズが高い、妊産婦全員へ支援実施割合と7か月児健康相談実施率は現状値は設定されていないが、目標値は平成31年度100%と設定されている。この達成について質問する。

- (1) 支援ニーズが高い、妊産婦全員へ、支援実施割合と7か月児健康相談実施を、町はどのように考え、目標とした理由は。
- (2) 7か月児健康相談実施後、保護者からの相談には、発達に関することや歯のこと離乳食についてなど、様々な相談があると思うが、どのような対応をしているのか。